

# 学びの灯

ようこそ、広島都市学園大学 子ども教育学部へ

子ども教育学部には、様々な研究をされている先生方がいらっしゃいます。

このページでは、毎月、一人一人の先生方の思いや考え方などを記していただき、読んだ皆さんの心や頭に「学びの灯」をともします。

一つ一つの「灯」は、いくつか集まると、きっと大きな明るさとなり、皆さんの未来を明るく照らすものとなるでしょう。

また、ある「灯」は皆さんの拠り所となって、どんなときであっても、希望と温かさを保ち続けてくれるでしょう。

さらに、皆さんが「新しい灯」をともし、多くの人々の未来を明るく照らすことに役立つことでしょう。

さあ、今月は、どんな灯でしょうか？



## 保育という営み

子ども教育学部 保育・幼児教育等担当教員

深澤 悦子

いま、宇品キャンパスは、やさしい香りにつつまれています。グラウンドから駐車場に向かう広場には、シロツメ草が一面に咲き誇り、ミツバチやモンシロチョウが蜜に誘われてやってきています。

「保育原理」の授業の中で、2年生の保育・幼児教育コースの学生たちとシロツメ草やたんぽぽで子どものあそびを体験しました。子どもだったらこのお花に何を感じるのかな？子どもだったらこの広場をどんなふうにあそびまわるのかな？など、子どもの視点や思いに寄り添いながら、実際にシロツメ草の首飾り、ブレスレット、髪飾りなどを作りました。学生たちは「むずかしいね。」「うまくいかない。」とつぶやきながら黙々とシロツメ草と向かい合っていました。はじめは、少したじろぎながら始まった活動ですが、どの学生も次第に真剣なまなざしになり、取り組みました。

教室に戻り、こんどは保育者の視点からあそびを捉え直します。シロツメ草とはどんな植物？シロツメ草であそぶ方法は？どうすればこのあそびが楽しくなるの？安全な環境をどのように確保する？など、保育のための環境構成の見取り図を書きながらあそびの構想を描きました。

保育という営みは、ただ漠然と子どもの世話をし、あそぶだけではなくて、子どもがよりよき可能性へ向かって育つために、「もっといい方法はないか」と探究し続け、子どもと向かい合うことなのです。